

IV-6

雪景色の持つ魅力とそのイメージについて

秋田大学 学生員 ○佐藤 タ子
秋田大学 正 員 清水浩志郎
秋田大学 正 員 木村 一裕

1.はじめに

都市と地域の景観整備については様々な研究がなされているが、これまで積雪期の景観に関する研究はあまり行われていない。冬の長い北国では四季の景観変化のひとつとしても、また快適な生活を送るためにも雪を魅力的な景観要素とした景観整備が必要と考えられる。

秋田を訪れたブルーノ・タウトが、丸子川の雪景色を絶賛しているように、水辺空間の雪景色は美しく、魅力的なものとなり得ると考えられる。そこで本研究では雪を考慮した景観整備を考えるためのひとつの試みとして、水辺のある空間に着目し、雪が景観に与える影響について、また「雪景色」の持つ魅力について考察する。

2.研究の概要

(1) 研究の流れ

本研究では川のある風景の積雪時と無積雪時それぞれを対象景観とし、それぞれの評価とイメージ調査を行った。そして各景観の嗜好性の検討とイメージ因子の抽出を試みた。また積雪時に関しては、景観の嗜好性別にみた因子の違いについて考察した。

(2) 調査概要

調査の質問項目は属性とイメージ評価、そして景観評価に大別される。属性については 1) 在住年数が最も長い場所、2) その年数、3) そこでの雪の関わり合い度(雪が降るか降らないか)である。また景観評価の項目は表-1 のように、写真から受ける 15 対の形容詞対での 5 段階評価によるイメージ調査と、1) 好きか嫌いか、2) 行ってみたくいか行ってみたくないか、3) 観たいか観たくないか、の嗜好評価とに大別される。調査に用いた写真は右に示しており、表-2 に示すように積雪時と無積雪時のものを 1 組として、上流・中流・下流のそれぞれ 2 組ずつの 12 景観と、都市の積雪時 1 景観の計 13 景観である。

なお被験者は大学生 58 名である。

3.景観評価について

(1) 景観の嗜好性

景観の嗜好性を調べるため、提示した景観につい

て 1) 好きか、2) 行ってみたくいか、3) 観たいか、の質問をした。その結果、無積雪時と積雪時のものを対とした景観全てで無積雪時の方が高い評価を得た。図-1 には好き嫌いの評価を示している。

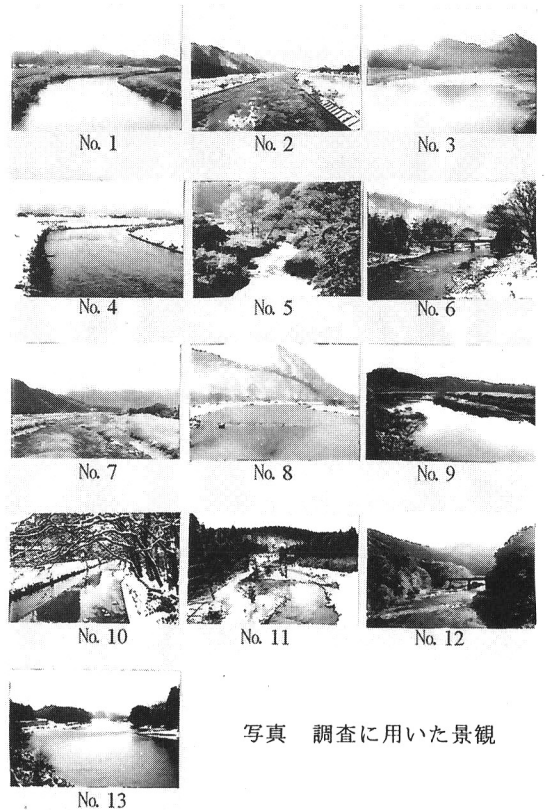


写真 調査に用いた景観

表-1 形容詞対

No.	形容詞対	No.	形容詞対
①	見附いた - 珍しい	⑨	印象的な - 印象的でない
②	雄大な - こじんまりとした	⑩	すっきりとした - 古雑な
③	現実的な - 幻想的な	⑪	耳慣れた - 変じのある
④	音がする - 音がしない	⑫	美しい - 美しくない
⑤	新鮮な - ありふれた	⑬	明るい - 暗い
⑥	潤いのある - 潤いがない	⑭	かたい - やわらかい
⑦	活発的な - 落ち着いた	⑮	寒い - 暖かい
⑧	ひんやりとした - 暖かみのある		

表-2 写真番号対応表

無積雪時	積雪時	無積雪時	積雪時
No. 1	No. 4	No. 5	No. 11
No. 7	No. 2	No. 12	No. 6
No. 3	No. 8	No. 9	No. 13
都市景観	No. 10		

また 1) 好きか、3) 観たいか、の評価に比べると 2) 行ってみたいかという質問については、積雪の有無に関わらず評価は低く、景観として好きまたは観たいと感じても、実際に行ってみたいとは思わないようである。

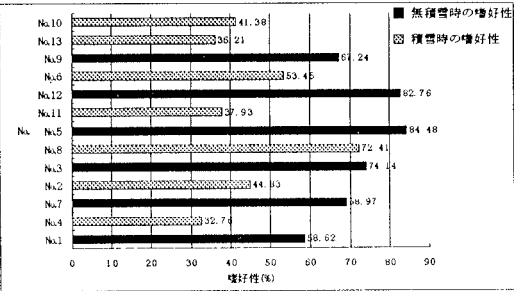


図-1 景観の嗜好性

(2) 属性別の嗜好性

属性に関する質問により、被験者を最も長く在住していた地域の雪の降りぐあいでも 2 つのグループに分類した。このそれぞれのグループの嗜好性の順位にそれほどの変化はなく、雪景色の評価に属性ごとの違いは見られなかった。

4. 雪景色のイメージ

(1) 全体的なイメージ

景観のイメージを把握するために、varimax 回転を用いて景観ごとに因子分析を行った。用いた形容詞対は⑨印象的な/印象的でない⑩美しい/美しくないという個々のイメージを統合化して形成される形容詞対を除いた 13 対である。Na. 6 の場合、固有値 1.00 以上の 4 因子が抽出され、構成されている形容詞対から第 1, 2, 3 因子軸をそれぞれ景観の暖かみを表わす軸、景観の動きを表わす軸、景観の日常性を表わす軸と解釈した。(表-3)

景観を無積雪時と積雪時の対でみると、雪は、さみしいとか寒いといったようなイメージをもたれている訳ではなく、かえって暖かみや柔らかさを景観に与えている。また雪景色には日常性も多く感じているようである。なお、出身地や川の上・中・下流によるイメージの違いは見られなかった。

表-3 因子負荷量 (No. 6)

形容詞対	因子1	因子2	因子3	因子4	形容詞対	因子1	因子2	因子3	因子4
①	-0.405	-0.816	0.142	0.163	⑧	0.944	0.040	0.018	-0.101
②	0.323	0.117	0.743	-0.041	⑩	0.793	-0.039	0.216	-0.308
③	0.399	-0.763	-0.006	0.026	⑪	0.391	0.049	-0.152	-0.724
④	-0.125	-0.284	-0.122	0.791	⑬	-0.141	0.119	0.243	0.633
⑤	0.048	0.820	0.110	-0.245	⑭	0.609	0.127	-0.511	-0.046
⑥	-0.097	-0.063	0.874	0.085	⑮	0.910	0.067	-0.055	-0.138
⑦	-0.104	-0.278	0.020	0.800					
寄 与 率						0.258	0.164	0.135	0.186

(2) 嗜好別のイメージ要因

雪景色について、その景観を「好き」と答えた人と、「嫌い」と答えた人のそれぞれのイメージを把握するため、因子分析を行った。表-4、表-5 には Na. 4 と Na. 6 の各因子で負荷量の高かった形容詞を示す。

「①見慣れた/珍しい」、「⑤新鮮な/ありふれた」といった形容詞対で表わされる「日常性」を表わす因子は、共に抽出されたが、とくに嫌いと答えた人の場合に多く、またその寄与率も高かった。また「⑮寒い/暖かい」、「⑧ひんやりとした/暖かみのある」といった形容詞対で表わされる「暖かさ」を表わす因子は、好きと答えた人の場合に多かった。雪景色を見て、その景観に「暖かみや安堵感」または「日常性」を感じるか感じないかで評価が違ってくると考えられ、暖かみを感じると、その景観を好みやすく、日常性を感じるとその景観を好まない傾向にあるといえる。

表-4 各因子で負荷量の高い形容詞 (Na. 4)

	因子1	因子2	因子3	因子4
好き	・珍しい ・新鮮な ・幻想的な	・暖かい ・やわらかい ・暖かみ	・こじんまり ・乱雑な	・落ち着いた ・単調な
嫌い	・見慣れた ・ありふれた ・現実的な	・音がしない ・落ち着いた	・かたい ・ありふれた ・現実的な	・ひんやり ・寒い

表-5 各因子で負荷量の高い形容詞 (No. 6)

	因子1	因子2	因子3	因子4
好き	・暖かみ ・暖かい ・乱雑な	・落ち着いた ・音がしない ・単調な	・ありふれた ・見慣れた ・現実的な	・潤いのない ・こじんまり ・かたい
嫌い	・現実的な ・雄大な ・暗い	・新鮮な ・珍しい ・単調な	・暖かい ・暖かみ	・柔らかい ・音がしない

5. まとめ

本研究では、積雪時と無積雪時の景観についてイメージ調査を行った。その結果、雪は景観に暖かいイメージや柔らかいイメージを与える傾向があった。とくに雪景色の嗜好性には、その景観に暖かさを感じるか、日常性を感じるかにより違いがあることが明らかとなった。今後の展開として、被験者の幅を広げ、また対象を様々な空間とした研究を進めたいと考えている。